

伊予市 じんけん教育

一人ひとりの人権が尊重される
明るい伊予市をめざして





2022
No. 39

■編集・発行
伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113 伊予市米湊 820 番地
TEL 089-982-5155 FAX 089-982-5156



【「虫いるかな？」散歩】

本園は、保育所・小学校が隣接しており、海や山にも近く、自然環境に恵まれていいます。今年度は、新入児が6名入園し、3つの小学校区から、17名の園児が通っています。少人数の幼稚園なので、すぐに仲良くなり、自然に異年齢の交流ができ、互いに刺激し合いながら毎日を過ごしています。

園児は、暖かくなると裸足になって、園庭で泥んこ遊びが始まります。気持ちも開放的になって、バシャバシャと足踏みをして泥の感触を味わったり、泥で作ったクーキやプリンを皿にのせて、ごちそう作りをしたりします。また、泥団子作りが始まると、5歳児を中心に、どうしたら固くてピカピカの団子になるんだろうかと試行錯誤しながら、夢中になって遊んでいます。

また園では、いろいろな小動物、虫や花、野菜などを飼育・栽培しています。ツマグロヒョウモンの幼虫を見つけ「この

虫は、何を食べるんだろう」と興味を持って図鑑で調べたり、飼育ケースに入れて、毎日観察したりします。園児は、幼虫からさなぎになり、何日かして羽化する瞬間の姿を見て「羽がしわしわで飛べるかな？」と心配したり、羽が乾いてチョウとして飛び立つのを見て喜び、拍手したりしました。子どもなりに生命の大切さを感じていると思います。また、野菜の苗を植えて、ト



【「水を流そう！」どろんこ遊び】

多様な生活体験を通して、豊かな感性を育てる

北山崎幼稚園



【「トマトおいしそう！」】

マトやキュウリ、オクラやエダマメ、トウモロコシなどを収穫しました。毎日水やりをしながら、野菜や花の変化に気づき、それを友達や教師に伝えに来てくれます。野菜が食べられるようになると「おいしそう！」とのぞいてみたり「みんなで食べよう！」と洗っておいしそうにほおばって食べたりしました。トマトが苦手な子も、自分で育てたトマトを食べ「これは、おいしい！」とうれしそうでした。

サッカー教室では、隣の保育所へ行って一緒に活動しています。同年齢の友達と関わりながら、一緒に学ぶ活動は、少人数の自園にとっては新たな仲間に出会う場でもあり、貴重な体験です。これからいろいろな活動が、一緒にできるよう計画していきます。

その他、5歳児はお茶会にも取り組んでいます。お茶の作法を学ぶことはもちろんですが、お祭りや文化祭などに参加して、地域の人とのふれあいも大切にしたいと思っています。



【マーカー立て(サッカー教室)】

コロナ禍であっても、感染対策をしっかりと行いながら、できる範囲で、いろいろな活動を工夫して取り入れていきたいと考えています。そして、遊びや生活の中で、驚いたり不思議に思ったりして面白さを感じながら、様々な感動体験を通して、子どもたちに豊かな感性を育み、生きる力を身に付けさせたいと思っています。



【「お菓子をどうぞ！」お茶会】

まだ参加
OKです

日本語教室 はじめました！

今年度、愛媛県国際交流協会との共催で、8月から12月まで、IYO夢みらい館において、日本語教室を開講しています。市内事業所で働く外国人の皆さんに、日本語学習の機会を提供するためです。オンライン授業です。オンライン授業です。参加している人もいます。

この取組が、職場や地域とのつながりを深めるきっかけになることを期待しています。



心豊かな佐礼谷っ子の育成を目指して 佐礼谷小学校

本校は、豊かな自然に囲まれた山間の小規模校で、全校児童11名です。春には野山に美しい花木が咲き乱れ、初夏の夜には清流に無数のホタルが飛び交います。

【全校縦割り班活動】

本校では、少人数のよさを生かし、異年齢集団での縦割り班活動を様々な場面で行い入れています。日々の当番活動や清掃活動を始め、俳句作りや全校お楽しみ会、遠足な



【縦割り遠足での異学年交流】

ど、異年齢の子どもたちが相談し合ったり、協力し合ったりして活動しています。その中で、上級生はリーダー性を培い、下級生に対する思いやりの心を育んでいます。また、下級生は、自分にできることを見つけ、協力しようとする意欲をもち、よりよい仲間づくりができています。

【全校話し合い活動】

児童一人ひとりの所属感を高め、主体性を育てることを目的に、年間3回程度全校話し合い活動を行っています。事前に、それぞれの学年で議題について話し合い、意見を持ち寄ります。子どもたちは、どの学年の意見にもしっかりと耳を傾け、尊重し合い、よりよい結論を導き出すと取り組んでいます。

「全校お楽しみ会」では、1年生から6年生まで、みんな



【全校児童による話し合い活動】

なが楽しめる内容やルールにしようと考えを巡らし、役割分担や準備等、全員で企画・運営に携わりました。その結果、互いを思いやり、協力し合いながら、楽しい活動を行うことができました。

このように、本校の子どもたちは、みんな考えて、みんな自分たちの学校をよくしたいこうという思いをもって、生き生きと学校生活を送っています。

【よいところを見つけ】

今年度から、月目標に合わせて、友達のよいところや頑張っていることを見つけ、紹介する活動を行っています。

授業中、休み時間、給食、掃除といった日々の生活の中で、目標の達成に向けて頑張っている友達や、助けてくれた友達をカードに書いて紹介し合う場を設定しています。子どもたちは、学級の友達同士だけでなく、縦割り班のメンバーや上級生、下



【よいところ紹介カード】



【5・6年生の授業風景】

級生相互のよさもいろいろな
場面で見つけ、互いに認め合っ
ています。

【人権・同和教育参観日】

毎年10月に、人権・同和教育の参観日を設定し、保護者や地域の方とともに、様々な人権問題について学習する機会を設けています。1・2年生は「命の大切さ」、3・4年生は「思いやりの心」、5・6年生は「ハンセン病に関わる

人権問題」について、真剣に学び、理解を深め、自分たちに何ができるかを考える時間となりました。



【講演会後の感想発表】

また、授業後は、児童と保護者、地域の方々を対象に、読み聞かせの講演会を行いました。参観授業や講演会を通して、温かい雰囲気の中、自分の周りの人に対する思いやりの言葉や行動が増えることを期待しています。



【地域へリボン贈呈】

本校では、シトラスリボンプロジェクトについて学習したことをきっかけに、児童が「コロナ差別がなくなっほしい」という思いを込めてリボンを結び、メッセージを添えて、地域の全住民に届ける活動を行いました。

コロナ禍で地域の方々との交流が制限される中、児童が主体となり、誰もが安心して暮らせる地域づくりに一役買う地域貢献活動として、思いやりの心を広げる実践になりました。

【学校の教育目標達成に向け】

今後も、児童が自ら判断し、地域社会の一員として、誰もが安心して暮らせる地域づくりの主体者となれるよう様々な実践を積み重ね、本校の教育目標「ふるさとに生き、心豊かにチャレンジする佐礼谷っ子の育成」の達成に向けた人権・同和教育の取組を継続していきます。



【思いを込めて製作した シトラスリボン】

第24期オピニオンリーダー養成講座 ～人権啓発活動推進者づくり～

日常の様々な人権問題を正しく知り、正しく伝えられる推進者を家庭や地域で増やすためのオピニオンリーダー養成講座が、6月から8月にかけて6回開催されました。

市役所やY・O夢みらい館文化ホールを会場に、感染症対策を講じながら、のべ475名の受講生が学びを深めました。

◆第1講 6月14日(火)

テーマ／今、子どもたちが学んでいること

講師／森岡郁雄

(伊予小学校教諭)

社会情勢に関するニュースや生活体験など、日々の生活の中に人権問題学習の視点はある。自分との関係性を見出し、共に問題の解決に取り組もうとすることが大事。

学校における人権問題学習のポイント、次の3点。



【第1講】

① 科学的な認識↓相手の立場を理解

② 問題解決のためのスキル↓問題に気付き・考え・実行する力の育成

③ 未来への展望↓先人たちの行動に学ぶことをとおして解決への明るい展望をもつ子どもたちにとって、差別をなくそうと行動する身近な大人の存在は大きい。子ども

たちの学びに大人はしっかりと向き合うべき。部落差別は教えるからなくならないのでなく、正しいことを知らないから差別が残っている。同和教育は、まさしく新型コロナウイルス感染症に対するワクチンと同じ。人権問題との出会いを大切に、正しく学び続け、解決のために行動できる「人がやさしいまちづくり」を目指したい。

【受講者の感想】

人間は、未知のものに対する不安感から、誤った情報により物事を偏見でとらえやすいものです。だからこそ、子どもの頃に多様な人や事象と出会い、よりよい関係を築く体験を積み重ねることで、物事を自分のこととして考えたり、偏見をもたず正しく理解できる力を身につけたりする

ことができると思うのです。子どもたちの学びを日常につなげていくことが、私たち大人の役目です。

私も差別をなくしたいと願う社会の一員として、過去の歴史や現実の問題から目をそむけないようにしたいです。

◆第2講 6月23日(木)

テーマ／その人らしく生きるために～老いと笑顔

とありがとう

講師／近藤 誠(西条市広域

隣保活動相談員)

介護保険の理念は、「自立支援」と「尊厳の保持」である。自立支援とは、「待つ」姿勢で、相手ができることを支援すること。「老いる」ことで人の体や心は変化するが、誰しも「ほめられたい」「感謝されたい」という欲求がある。やるべき役割



【第2講】

がなくなると、生きがいはいなくなる。できない人と決めつけ、高齢者が求める生きる可能性を認めないことは、差別である。

認知症は、後天的な脳の障がいだ。認知機能が低下して生活に支障をきたすが、何もわからない、できない人ではない。

人の本能は「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」の3つ。生きがいを与える介護とは、本人が「最期まで生きる」

ことを支えること。相手に安心感と勇気を与える「笑顔」と「ありがとう」の言葉を、地域に広げていく。

【受講者の感想】

人はつい過介護をしてしまいがちですが、相手と関わる際に大切なことは「やれる力を大切にすること」「尊敬の気持ちをもつこと」だと分かりました。無意識のうちに傷つけ不安にさせたり、相手の能力を奪ったりすることがないようにしたいと思います。これは子育てにも必要な考え方ですね。

認知症の方と関わるときは、3つの「さ」（さわやかに、さりと、さりげなく）、5つの「あ」（あせらず、あわてず、あきらめず、あかるく、あたたかく）、3匹の「タイ」（認められたい・褒められたい・人の役に立ちたい）を忘れずに関わりたいです。今回の講座で、認知症に対する考え方が大きく変わりました。

◆第3講 7月6日（水）

テーマ／子どもの人権と家庭・

不登校への支援

講師／土居和博（子ども総合センター長）

武田廣香（適応指導教室指導員）

室指導員）

全国的に児童虐待相談件数は増加傾向にあり、本市の子ども総合センターにも子どもに関する相談が年間1800件近く寄せられている。令和4年6月に改正児童福祉法が成立し、各市区町村に妊産婦も対象にした「子ども家庭センター」設置が進むことになる。

原因と理由なき不登校が全国的に増えている。子どもたちは友人関係や授業など、心身に負担をかける小さな出来事の連続で、外に向けて立ち向かう心のエネルギーが枯渇して動けなくなる。不登校の子どもには、ゆつくりと自分の力で立ち上げられるよう、段階に応じた柔軟な対応が必要。不登校の初期段階では、問

題だと決めつけず「どうする？」と本人に考えさせたい。親として子どもに向き合い、不安を抱える子どもの言葉に耳を傾け、関わり続けることも大切。小さい頃からよさをほめて自信をつけさせてほしい。

不登校の子どもが通う「はばたき教室」では、学習や体験活動をとおして、自信や自主性を育てるようにしている。子どもは信頼されていると実感すると積極的に活動し、次の目標に挑戦する。どんな時も受容と共感の姿勢が大事。不登校について正しく理解し、家庭や地域でも温かく見守ってほしい。「親が笑顔でいること」「信じて待つこと」「自主性を育てること」で子どもは元気になる。



(はばたき教室卒業生の言葉)

自分は、小学生のとき環境の変化による精神的なストレスで登校できなくなりました。でも中学3年で「はばたき教室」に出会って登校できるようになり、高校進学後は、寮生活をしながらクラス委員長や体育祭の応援団長も務めました。今は大学で児童福祉について学んでいます。私は、今からでも人生は十分やり直せるということをみんなに伝えたいです。



【第3講】

不登校や引きこもりの子が出口の見えないトンネルを自分で抜ける日はきつとある。学校・家庭・地域に子どもたちの心の居場所はある。悩んでいる子どもや家庭を、どうか温かい目で見守ってほしい。

【受講者の感想】

わが子も入学時に「学校に行きたいけれど行けない」ところがありました。まじめな性格からか、少しのことで心が不安定になり、理由のわからぬ腹痛で、親も悩みました。でも、ゆつくりと時間をかけてプラスになる言葉をかけ、話し合って自分で考えさせることで、少しずつ登校できるようになりました。どうしても自分のものさしで子どもを見てしまいがちです。今回、子どもの話をまだうまく受容できていないことに気付きました。また、お話しいただいた卒業生の勇氣にも感動し、信じて待つ周囲の関わりが重要であることを学びました。



【第4講】

◆第4講 7月15日(金) テーマ／拉致問題と特定失踪者の家族としての立場から 講師／大政悦子(救う会愛媛 幹事)

拉致はある日突然、自由に生きる権利を奪い取る人権侵害です。平成14年に北朝鮮が拉致を認めたことを機に、韓国旅行中に行方不明になった

娘も拉致されたのではないかという思いが沸き上がりました。やがて「特定失踪者問題調査会」が発足しましたが、私は、娘の公表については世間の誹謗中傷などを想像して悩みました。でも、私は「娘と再会したい」「消息を得たい」という思いから、どんなことも受け止めようと覚悟を決めたのです。

思い返せば31年前、私は娘を一人で韓国旅行へ行かせた後悔と消息不明の不安で毎日押しつぶされそうでした。様々なうわさ話も耳に入り、泣かない日はありませんでした。公表までは本当に長い12年間でした。

やがて「北朝鮮による拉致問題を考える愛媛県民会議」が設立され、娘のことを我が事のようにとらえて尽力してくださる方々に出会い、感謝の気持ちが

膨らむにつれ「これから娘のことだけでなく、拉致された全ての人々を救出するために頑張ろう」と気持ちを持ち替えました。平成20年、北朝鮮で娘の目撃証言があったことから、娘の名は拉致濃厚者リストに掲載されました。来県した拉致被害者の蓮池薫さんからも、励ましの言葉をかけていただきました。

私は今、皆様の優しさ、思いやりのおかげで幸せです。何があってもあきらめないで、明日を信じ、「おかえり」と娘を抱きしめる日のために、皆様に支えられながら頑張ります。

【受講者の感想】

自分にとって遠いイメージだった拉致問題について、今日これほど身近に痛みを感じながら学んだのは初めてです。もし自分が急に拉致されたら、自分の大切な人がある日急に行方不明になったら、私は生きていく自信を失うかもしれ

ません。今まさにその苦しみに向き合っている人が大勢いることを心に留めておきたいです。

署名等の意思表示、学び続けることなど、一人の力は小さくても、思いをもち続けて行動したい。娘さんにずっと会えずにいる大政さんが、希望をもち続け、拉致問題の解決に向け活動されていることに感銘を受けました。辛い体験を話すのは苦しかったでしょうが、貴重な当事者の声を届けてくださった大政さんに感謝し、私も何か少しでも貢献しようと思います。

◆第5講 7月25日（月）

テーマ／子どもたちの多様性を可能性に(2)

—D&Iを考える—

講師／相原勝（市教育委員会 学校教育課指導主幹）

「多様性」とは、個人や集団の中に存在する様々な違いの

こと。「多様性を知る」とは、困難さによる「くらしにくさ」に気づくこと。本人の特徴に合わせて、対応を考える必要がある。

「自閉症」の特性は、対人・社会性の問題、言葉の問題、こだわりや興味の偏りがあることだが、正しく理解して見方を変えると、その特性は長所にも強みにもなる。

（ゲストの保護者の言葉）

我が子は、5歳で発達障がいと診断されました。発達障がいについての理解も不十分な中、親として揺れ動く思いもありましたが、目の前の子どもの人格を認め、子どもの立場に立とうと心に決めました。そして、どんな時も「ありがとう」と声をかけ、ほめることを大切にしました。何より、地域や友達がわが子の個性を受け入れ認めてくれて、大勢に支えられて生活できていることに感謝しています。



【第5講】

「セルフエスティーム」（自己肯定感・自尊感情）を育てるためには、「ほめることを大切にする」「困ったときに『助けて』と言えるようにする」「指示は短く穏やかに」「人格を否定せず存在を認める」ことが大切。「働く」とは、自分のできる役割を果たし、周囲の人や社会のために役立つこと。障がいの有無にかかわらず、幼少期からお手伝いをして家族から感謝される体験を重ねることは、将来の

自立につながる。

「社会的包摂」とは、誰もが社会に参画する機会を持ち、排除されないこと。これは持続可能な開発目標（SDGs）の「誰一人取り残さない」という理念そのものである。「ダイバーシティ（多様性）＆インクルージョン（包摂性）」（D&I）とは、組織の中で個人として尊重されながら、その違いを生かして力を発揮できるように働きかける考え方で、これは特別支援教育の理念とほぼ同じ。誰もが社会の大切な一員であるから、全ての人が地域社会の中でどうあるべきか考える必要がある。

【受講者の感想】

小中学校時代、クラスに自閉症の子がいました。その子は、年齢が上がるにつれて言葉数も学習の理解力も向上していました。「人はどんな違いがあろうとも、同じ人間に変わりはないんだ」と、私は子どもながらに感じていたのを

覚えています。

全ての人は、支え合う仲間として受け入れることが重要であると考えます。障がいのある人や高齢者、職場の仲間などに対しても、できないことよりできることに目を向け、相手を理解できるように接していきたいと思います。

◆第6講 8月3日（水）

テーマ／部落差別解消の歴史

講師／宮岡真司

（郡中学校校長）



【第6講】

平成28年に「部落差別解消推進法」が施行。この法は、部落差別が現存することを意味する。部落差別の解消は日本の国民的課題であり、差別される側でなく「差別する側」の問題。人々の無知・無関心が問題解決を遅らせている。国民一人ひとりがこの問題に対する理解を深めるため、教育や啓発が必要。

部落差別は、長い歴史の中で支配の仕組みとして利用されたもので、江戸時代に固定化され、強化された。その後、明治時代に解放令で身分制度を廃止したにもかかわらず、新たな身分秩序により、経済的な問題や就職・教育の機会均等の問題が残り、人々の誤った見方や偏見は今日まで続いている。

日本で最初の人権宣言といわれる「水平社宣言」の中で、部落差別解消を訴えてから今年にはちょうど100年。今こそ、一人ひとりがこの問題に関心をもち、迷信や偏見に惑わさ

れず「これっておかしいのでは？」と気付く力をもつこと。差別しているか、していないかではなく、「差別になっているか、なっていないか」という見方が大事。いじめ問題も同じ。間違ったことに「同調しない」態度を示せるように、正しい理解と行動力を身に付ける必要がある。

【受講者の感想】

今回、部落差別について、歴史的背景から学びました。部落差別は、長い時間をかけて人がつくってきたものだと思いました。

差別は、差別する側の意識の問題であり、誰もが自分事として考えなければならぬと感じます。言い伝えやネット上などの誤った情報で判断せず、正しく知ることが、誤った認識、差別を跳ね返すことにつながると思います。今日の学びを自分の中だけに留めるのではなく、この思いを広く発信、啓発していくことで、自分も差別と闘っていくたいです。

第69回四国地区人権教育研究大会

県内報告会

高松市で開催予定であった第69回四国地区人権教育研究大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年と同様に県内報告会として、愛媛県内参加者のみで実施されました。



【分科会の様子】

6月30日（木）、全体会は行わず、感染防止対策を徹底して、3つの分科会が、にぎつつ会館と愛媛文教会館で開催

され、差別の現実を見つめ人権文化の構築をめざす教育のあり方について協議しました。伊予市からは22名が参加し、県内各地の研究と実践の交流をとおして学びを深めました。社会教育部会では、本支部が、全国水平社創立100周年を迎えた今だからこそ、コロナ禍でも対策に留意しながら学びを止めない、学校と地域社会とが連携した啓発活動の在り方について報告しました。

【参加者の感想】

伊予市の報告内容からは、コロナ禍にあつて、試行錯誤と模索の中で諸会合や研修会を開催した関係者の労苦と「何としても差別を解消する」という執念が感じられました。本市では、人権委員会の中学生・高校生を巻き込むことで、学習会がより熱気を帯び、前進しています。私自身、差別

をなくしたいと前向きに取り組む子どもたちの姿に、勇気や元気をもらっています。まさしく、ある人権学習会で参加者が述べた「私たち大人も負けてはいられない」という気持ちです。

私は、15年ほど前の研究会で、フロアから「私は、被差別部落に住んでいます。：優しくして仕事にも一生懸命な家族も、地域の人も大好きで、誇りに思っています」と、勇気を振り絞って立場宣言をした中学生の姿が、今も強く記憶に残っています。「果たして自分は、誰もがふるさとを堂々と語れる社会づくりに、本気で関わっているだろうか」と自問自答し、自分のいたらないさや自身の中に潜む差別心にも気付かされました。

人間の本质を問う人権学習には、大人と子どもの隔たりはありません。人として、人権

同和教育の推進者としてこれからも子どもと共に学び続けなければならぬと、私は改めて思いました。

市民意識調査への ご協力をお願い

伊予市では、「伊予市人権を尊重する社会づくり条例」に基づき、人権が尊重される地域社会の実現に向けて、様々な取組をしています。この取組がよりよいものになるよう5年ごとに市民意識調査を行っています。

この調査を10月21日（金）から11月4日（金）まで実施します。市内の18歳以上、1500人の方（無作為抽出）へ調査票をお送りします。ご自宅に届きましたら、設問にお答えのうえ、返送をお願いします。



インターネット上の人権侵害を防ぐために

パソコンやスマートフォン、タブレット端末には、掲示板やSNS、動画配信などコミュニケーションの輪を広げる便利な機能があります。しかし、誹謗中傷の言葉や他人に知られたくない事実、個人情報などを不特定多数の人々の目にさらすことで、人の尊厳を傷つけるだけでなく、相手の命までも奪いかねない重大な事態をまねく危険性も含んでいます。

安易な書き込みや誤った情報を信じ偏見から人を差別するなど、インターネット上で起こりうる人権侵害について理解を深めましょう。

掲示板に、いたずら、いやがらせ、仲間はずし目的の言葉…

どうしてこんなひどいことを

他人の氏名や住所などの個人情報勝手に…

他人の意見に同調しながらの誹謗中傷や脅迫で、相手を傷つける言葉が…



性や暴力に関する有害な情報

今、インターネット上では…

インターネット上では、あらゆる有害情報があふれています。有害サイトへの接続で、見知らぬ人物と出会い犯罪に巻き込まれる事件は後を絶ちません。

また、安易な情報発信や、他人の氏名や住所等の個人情報やつぶやきがSNS等に記載され、同調者を生み不特定多数の人に広がることで、人を傷つける事案も増えています。

書き込まれた内容は、短時間で一気に拡散し、たとえ画面上で削除してもインターネット上では消えずに残ります。心無い言葉で批判されることも、自分の手では防ぐことができません。安易な書き込みによる誹謗中傷や名誉毀損^{めいよきそん}も、今は民事上、刑事上の責任を問われる可能性があります。

部落差別解消推進法

近年は、不当な差別を助長・誘発する目的で、ネット上で特定地域を被差別部落であると指摘するなどの事案も発生しています。一度拡散した情報は完全に削除されることは難しく、「同和問題はそっとしておけばなくなる」とは決して言えません。

今なお部落差別が存在し、新たな状況にあることを踏まえ、2016年（平成28年）に部落差別解消推進法が制定されました。

加害者にも被害者にもならないために

「自分を隠して発信できる」といった誤った思い込みから、安易な書き込みで他人の人権を傷つけることは、許されないことです。

忘れてはならないのは、パソコンやスマートフォンなどネット端末の向こう側には、自分と同じ人間がいるということです。

無責任な情報にだまされ被害にあわないために、そして加害者にならないために、ルールやマナーを守ることが何より大切です。

相手を傷つけないために

- ◎悪口や差別的内容は書き込まない。
- ◎他人の書き込みに便乗してエスカレートさせたり、同調して書き込んだりしない。
- ◎インターネット上の情報が、全て正しいとは限らない。

自分自身を守るために

- ◎個人情報は世界中に拡散する可能性があることを認識し、安易な送信や書き込みをしない。



人権侵害で困ったときは、法務省や市の人権相談窓口にご相談ください。

次頁も参考に

人権問題で困ったときは



人権に関する相談（令和4年4月現在）

いじめ、差別、虐待、セクハラ、暴力など、人権に関するあらゆる困りごと、心配ごとをお気軽にご相談ください。事前の予約は不要です。（相談は無料）

個人の秘密は固く守りますので、一人で悩まず安心してご相談ください。

伊予市 特設人権相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
IYO夢みらい館	909-3266	人権相談	毎月第3木曜日 13:00～16:00
中山地域事務所	967-1111	人権相談	4・6・9・12・2月第3木曜日 13:00～16:00
双海地域事務所	986-1111	人権相談	下記のいずれも 13:00～16:00 4・9・2月 第3木曜日
下灘コミュニティセンター	987-0111	人生相談	6・12月 第3木曜日
伊予市役所福祉課 （福祉まるごと相談窓口）	982-7330	家族の抱える問題、介護や子育てに関する相談等	月～金曜日 8:30～17:00

*日程、会場等は変更する場合がありますので、事前に電話等でご確認をお願いします。

相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
扶桑会館	946-7997	人権相談 心配ごと相談	毎月第3水曜日 10:00～12:00 （窓口相談は随時受付）
愛媛県人権対策協議会伊予市支部	983-6230	人権相談	月～金曜日 10:00～12:00

子どものための相談

相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
子ども総合センター （総合保健福祉センター2階）	989-6226	家庭やDVなどの 悩み相談	月～金曜日 8:30～19:00
適応指導教室（はばたき）	989-5022 （不登校関係）	子育て・問題行動・ 虐待・不登校等相談 発達に関する相談等	月～金曜日 8:30～17:00
子どもの人権110番	0120-007-110	いじめ・虐待など 子どもの人権問題	平日 8:30～17:15

女性のための相談

相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
愛媛県男女共同参画センター （松山市山越町450）	926-1644	一般相談	火～日曜日 8:30～16:30 火～金曜日の電話相談は17:30迄
		法律相談（要予約）	第1・2・4木曜日 13:30～15:30
女性の人権ホットライン	0570-070-810	家庭内暴力など 女性の人権問題	平日 8:30～17:15

外国人のための相談

相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
外国人のための電話相談窓口	0570-090-911	一般相談	平日 9:00～17:00

その他 人権問題に関する相談全般

相談場所	電話番号	相談内容等	受付時間等
愛媛県人権啓発センター	089-941-8037	人権相談	平日 8:30～17:15